

第82回がん対策推進協議会

資料3

令和4年9月20日

# 「がん検診」分野に係る がん対策推進基本計画の見直しについて

厚生労働省

健康局 がん・疾病対策課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

# 「がん検診」分野の第3期中間評価

# 「がん検診」に関する第3期中間評価について①

(第3期がん対策推進基本計画中間評価報告書より抜粋)

## (中間評価指標と指標測定結果)

1031	がん検診受診率 (国民生活基礎調査)			
	2019年		2016年	
	男性	女性	男性	女性
胃がん	48.0%	37.1%	46.4%	35.6%
肺がん	53.4%	45.6%	51.0%	41.7%
大腸がん	47.8%	40.9%	44.5%	38.5%
子宮頸がん	—	43.7%	—	42.4%
乳がん	—	47.4%	—	44.9%

## 参5 コール・リコールを実施している市区町村の割合 (健康増進事業報告)

個別受診勧奨	2020年	2018年	2017年
	胃がん	80.4%	83.3%
肺がん	78.8%	82.3%	79.8%
大腸がん	81.6%	85.2%	84.0%
子宮頸がん	81.9%	86.7%	81.9%
乳がん	81.6%	85.4%	82.5%

個別受診勧奨を実施した自治体のうち、検診未受診者に対する個別再勧奨 (全員又は一部) を実施した自治体

	2020年	2018年	2017年
胃がん	37.4%	46.1%	44.7%
肺がん	36.6%	44.7%	42.7%
大腸がん	42.5%	52.5%	50.4%
子宮頸がん	50.7%	60.2%	57.3%
乳がん	52.5%	58.5%	57.3%

		2019年度	2018年度	2016年度	2015年度	
1032	精密検査受診率 (健康増進事業報告)	胃がん	84.1%	85.4%	—	—
		胃がん (X線)	—	—	80.7%	81.7%
		胃がん (内視鏡)	—	—	83.6%	—
		肺がん	83.0%	83.1%	83.0%	83.5%
		大腸がん	69.8%	70.3%	70.6%	70.1%
		子宮頸がん	74.6%	75.0%	75.4%	74.4%
		乳がん	89.2%	89.2%	87.8%	92.9%
参6	精密検査未把握率 (健康増進事業報告)	胃がん	10.0%	8.9%	—	—
		胃がん (X線)	—	—	11.5%	7.4%
		胃がん (内視鏡)	—	—	13.6%	—
		肺がん	10.6%	11.0%	10.6%	10.0%
		大腸がん	17.8%	17.0%	16.6%	17.2%
		子宮頸がん	19.3%	18.6%	17.6%	18.3%
		乳がん	7.7%	7.9%	8.9%	9.1%

## 参7 精密検査未受診率 (健康増進事業報告)

	2019年度	2018年度	2016年度	2015年度
胃がん	5.9%	5.7%	—	—
胃がん (X線)	—	—	7.7%	10.9%
胃がん (内視鏡)	—	—	2.6%	—
肺がん	6.5%	5.9%	6.4%	6.5%
大腸がん	12.4%	12.7%	12.8%	12.7%
子宮頸がん	6.1%	6.4%	6.9%	7.3%
乳がん	3.1%	3.0%	3.3%	3.5%

# 「がん検診」に関する第3期中間評価について②

(第3期がん対策推進基本計画中間評価報告書より抜粋)

## (中間評価指標と指標測定結果)

		2020年度	2018年度	2017年度		
1033	指針に基づくがん検診を実施している市区町村の割合 (健康増進事業報告)	胃がん	対象年齢	6.0%	4.8%	4.2%
			受診間隔	5.2%	5.3%	4.6%
		肺がん	対象年齢	80.3%	80.1%	79.4%
			受診間隔	99.6%	98.8%	98.7%
		大腸がん	対象年齢	77.9%	76.4%	75.7%
			受診間隔	99.9%	99.6%	99.7%
		子宮頸がん	対象年齢	96.9%	97.1%	96.4%
			受診間隔	35.1%	35.1%	34.1%
		乳がん	対象年齢	83.3%	61.3%	60.2%
			受診間隔	42.3%	40.3%	39.8%
参8	指針に基づかないがん検診を実施している市区町村の割合 (健康増進事業報告)	81.3%	85.4%	87.2%		

1034	「事業評価のためのチェックリスト」を実施している市区町村の割合 (健康増進事業報告)					
		2020年度		2018年度		2017年度
胃がん	集団	X線 81.1%	内視鏡 73.6%	X線 79.1%	内視鏡 66.5%	76.0%
	個別	X線 70.1%	内視鏡 73.7%	X線 67.4%	内視鏡 66.3%	63.6%
大腸がん	集団	80.8%		78.6%		75.6%
	個別	71.6%		68.0%		64.0%
肺がん	集団	80.7%		78.5%		75.5%
	個別	69.9%		66.3%		
乳がん	集団	81.5%		79.1%		75.7%
	個別	73.4%		69.8%		65.8%
子宮頸がん	集団	81.3%		78.9%		75.5%
	個別	73.5%		69.9%		66.2%

## (がん対策推進協議会としてさらに推進が必要と考える事項)

がん検診の受診率は、男女とも全てのがん種で上昇傾向にあるが、男性の肺がん検診を除いて、目標値の50%を達成できていない。さらに新型コロナウイルス感染症の影響により後退していることも想定され、それががん医療にどのような影響を与えたか、長期的に年齢調整罹患率や年齢調整死亡率、がん検診受診率等の推移を注視していく必要がある。引き続き、「がん検診のあり方に関する検討会」での議論も踏まえ、がん検診に関する情報提供、受診率向上の取組を推進する必要がある。また、未受診者の実態を把握し、国民が利用しやすい検診体制を整備していく必要がある。

職域におけるがん検診については、その位置づけが不明確であり、実施状況や精密検査の受診状況を把握する仕組みがないため、その手法について引き続き検討が必要である。

また、がん検診の精度管理について、指針に基づかないがん検診の実施率は、全国で改善が見られていない。がん検診受診後の精密検査受診につなげる取組を推進しつつ、指針に基づくがん検診の実施や、チェックリストの実施について、市区町村への働きかけをより一層推進していく必要がある。

# 「がん検診」分野の検討の視点

# 「受診率向上」分野の見直しの検討の視点

- 中間評価の議論及び「がん検診のあり方に関する検討会」からの提言を踏まえ、以下の主な論点についてどう考えるか。
  - がん検診受診率の目標値について、第3期では多くのがん種で目標値を達成できなかったものの、全てのがん種において上昇傾向であることを踏まえ、60%に引き上げることとしてはどうか。
  - 職域におけるがん検診について、受診率の継続的な把握及び適切な実施に向けた課題の整理のための検討を進めることとしてはどうか。
  - 受診率をさらに向上させるため、これまでの取組から得られた知見を踏まえた、より科学的かつ効率的な受診勧奨策を推進するとともに、医療技術の進歩等を踏まえた新しい技術の取扱いに係る検討を進めることとしてはどうか。
  - 新型コロナウイルス感染症の拡大時等、がん検診の提供体制を一時的に縮小せざるを得ない場合でも、状況に応じて速やかに提供体制及び受診行動を回復させることができるよう、平時における準備等の対応を含め、研究を進めることとしてはどうか。

# 「精度管理」分野の見直しの検討の視点

- 中間評価の議論及び「がん検診のあり方に関する検討会」からの提言を踏まえ、以下の点についてどう考えるか。
  - がん検診の精度管理について、レセプトやがん登録情報の活用に係る技術的支援等を進めることとしてはどうか。
  - 市町村におけるがん検診の精度管理をより適切に実施する観点から、地域の実態を踏まえた上で、都道府県による指導・助言等の取組を促すこととしてはどうか。
  - 精密検査受診率の目標値は引き続き90%としつつ、精密検査受診率の低い市町村の実態把握を進めることとしてはどうか。
  - 職域におけるがん検診の精度管理を推進する観点から、保険者に対する技術的支援等を含め検討を進めることとしてはどうか。
  - 精密検査受診率を更に向上させる観点から、自治体による要精密検査とされた受診者に対する精密検査を受けられる医療機関リストの提供等、がん検診の実施者による分かりやすい情報提供を推進することとしてはどうか。

# 「科学的根拠に基づくがん検診の実施」分野の見直しの検討の視点

- 中間評価の議論及び「がん検診のあり方に関する検討会」からの提言を踏まえ、以下の点についてどう考えるか。

- 組織型検診(※)の構築に向けて、課題の整理及びその対応に係る検討を進めることとしてどうか。

(※) 統一されたプログラムのもと、適格な対象集団を特定し、対象者を個別に勧奨する検診をいう。

<課題の例>

- 自治体検診と職域検診の結果とを一元的に把握する仕組み
- 効率的かつ持続可能な受診勧奨のあり方
- 海外における取組の実態把握
- 国内のがん検診の進捗や課題を整理するため、定期的に諸外国における体制や取組と国内の状況とを比較することとしてどうか。
- 指針に基づかないがん検診に係る効果検証について検討を進めるとともに、指針に基づかないがん検診の効果検証を希望する研究者や企業と市町村とをマッチングするような仕組みについて検討を進めることとしてどうか。
- より効率的・効果的ながん検診の実施を推進する観点から、科学的根拠に基づいた効果検証を進めるとともに、対策型検診の項目変更に係るプロセスの明確化等の検討を進めることとしてどうか。



# (参考) 組織型検診について

- 「組織型検診」は、がんの死亡率減少をより確実にするために公共政策として行われる検診。いわば、対策型検診の理想型であり、その方法は基本的には対策型検診と同一である。より確実な成果をあげるために、有効性の確立したがん検診を正しく実施するだけでなく、多くの人々が受診できるようなシステムが構築されている（出典：国立がん研究センターがん情報サービス）。

